

2018年度 事業報告書

2018年4月1日から 2019年3月31日まで
 特定非営利活動法人 JADE－緊急開発支援機構

1 事業の成果

本年度はバングラデシュにおいてロヒンギャ難民支援事業を開始、コックスバザール県の避難民キャンプで暮らすロヒンギャ難民を対象とした調査事業及びジェンダー・衛生支援を行った。

またパレスチナ自治区における保健医療支援事業を実施した。身体障がい者に対する理学療法を提供しており、リハビリを患者が定期的に受けることで身体機能が改善し、外出したり学校に行けたりするなどの成果が現れている。

ロヒンギャ難民支援活動においては、2017年のミャンマー軍による介入以降、バングラデシュに流入した難民はこれまでに約90万人にのぼる。本事業は約55,000人が避難生活を送るコックスバザール県ウキア郡クットウパロンのキャンプ11及び12において4,300人の避難民女性を対象にディグニティーキット（生理用ナプキン、女性用スカート、洗浄用バケツ、石鹸等から構成）を配布した。キャンプにおいては、女性が世帯主、家族が5人以上、子どものいる世帯が特に脆弱性が高いと報告されており、本事業でも裨益者選定の際に基準とした。

避難民は原則キャンプ内での農業が禁じられている他、現金収入の機会、市場へのアクセスが非常に限定されている。特に社会的に弱い立場にあり、劣悪な環境での生活を余儀なくされている女性たちへの支援が喫緊の課題とされている。キャンプにおける住環境、防犯、プライバシーなど多くのジェンダー問題がある中、女性たちが月経時に少しでも衛生的かつ安全に過ごすことができる配慮は不可欠と考えられる。このような状況下、ディグニティーキットを用いることで月経時に衛生的に過ごすことは感染症の予防に有効であり、また心身ともに体調を崩しやすいこの期間の精神的負担を軽くすることにもつながる。また脆弱性が高い層に支援を集中させることで、経済的な危機を軽減させる効果が期待される。

配布に際しては事前説明会を行い、①ディグニティーキットの構成と使用方法の説明、②基本的な衛生知識、③女性を対象とした有意な情報の提供（各種支援・サービス窓口の紹介等）などを提供するなど、多角的な支援の実施に努めている（事業継続中）。

2 事業の実施に関する事項

事業名	内 容	実 施 日 時	実 施 場 所	従事者 の人数	受益対象者 の範囲及び 人数	支出額
海外事業	避難民、被災民に対する事業形成調査及び緊急人道支援の実施	4月－3月	海外 被災地	4人	地域住民 約4,300人	約2千万円
国内事業 その他	本年度は実施なし	なし	なし	0人	なし	0

(2) その他の事業

特になし